EMI試験の効率化、EMS試験の重要性

電子機器の開発の中で、商品化直前に行われるEMC（電磁両立性）試験は、設計段階から対応策を考えておかないと、後戻りが大きく、適合が難しい試験の一つです。EMC試験にはEMI（エミッション）試験とEMS（イミュニティ）試験があり、エミッション試験に関しては多くの国や地域で規制が行われており、不要な電磁波を許容値以下にする必要があります。イミュニティ試験に関しては医療機器など一部の製品を除いて法的には要求されないことが多い状況です。ただし、欧州に出荷する製品に義務付けられているCEマーキングでは、EMC指令があり、電磁波を発する、あるいは電磁波の影響を受ける製品は、このEMC指令に適合することが義務付けられています。欧州に出荷しなくても、ユーザ仕様として客先から要求されることもあります。また要求がなくともイミュニティ試験をせずに市場でトラブルになり、淘汰された場合、ブランドイメージの失墜は避けられません。

本セミナーでは前半で令和3年に他県に先駆けて島根県産業技術センターに導入したEMIレシーバを用いた効率的なエミッション測定について説明し、後半ではイミュニティ試験の重要性を説明します。

オンデマンド配信

受講料 無料

配信期間

2025年
1月15日（水）9:00 ▸▸ **2月14日（金）23:59**

※動画の再生時間は**約1時間10分**です。（各社で適宜ご視聴ください。）

講座内容

【１】従来の測定方法とその限界

【２】最新EMIレシーバ「PXE」の新機能

【３】従来の測定器との違い

【４】イミュニティ試験の重要性

※2022年2月に実施した、放射・伝導イミュニティ（EMS）試験技術講座にて配信した動画と同様の内容です。

講師

中村 哲也 氏
（株式会社東陽テクニカ　ワンテクノロジーズ・カンパニー）

2010年から2024年8月までIEC SC77B WG10の国際会議に日本のエキスパートとして参加、IEC61000-4シリーズ規格の規定・改定に携わる。
国内では、SC77B国内委員会においてIEC61000-4シリーズ規格の審議、EMC関連のJIS規格の原案作成や総務省電波利用環境委員会のCISPR A検討会への参加、総務省の答申原案の作成および CISPR A関連規格の審議を行う。また、VCCI教育研修専門委員会のメンバーとしてEMCエンジニアの教育に携わる。

対象者

電気製品、医療機器、情報機器の開発、設計、評価でEMC試験を担当されている方

前提知識

電子回路の基礎知識、電磁気やノイズに関する基礎的な知識があると理解が深まります。

習得知識

- 最新のEMIレシーバを使用した効率的な測定方法
- イミュニティ（EMS）試験の重要性

受講条件

島根県内に事業所等を有する企業であること
県外事業所勤務の方が参加される場合は、県内の事業所の方を申込み担当者（連絡者）にしてお申込みください。

ＨＰからお申込みください

https://www.joho-shimane.or.jp/purpose/human/11541
※お申込みの際は、申込みフォームに記載の【注記】を必ずご確認ください。

受講の決定連絡について

申込日		連絡日
1/9まで	→	1/10
1/10以降	→	2営業日以内

受講の決定については、上記の通り連絡者様及び参加者様へメールにてお知らせいたします。

申込締切　2025年2月10日（月）17:00

主催
公益財団法人しまね産業振興財団
創業・人材支援課（担当：布野・新宮）
〒690-0816　島根県松江市北陵町1番地
TEL：0852-60-5117　FAX：0852-60-5116
E-mail：ihrd@joho-shimane.or.jp

協力機関
島根県産業技術センター
電子・電気技術科（担当：大峠、寺本）
TEL：0852-60-5138（直通）